

グリーンローンフレームワーク

2023年9月29日

株式会社Actyカナイ

兵庫県三木市志染町青山5丁目10-13

目次

1. はじめに.....	3
1-1. 借入人概要.....	3
1-2. CSR・ESG への取り組み.....	3
1-3. グリーンローン借入の位置付け.....	4
2. 調達資金の使途.....	4
2-1. 資金充当予定のグリーンプロジェクト.....	4
2-2. 環境改善効果.....	4
2-3-1 ネガティブインパクト.....	5
2-3-2 将来への展望.....	5
2-4. 資金充当の予定.....	6
3. プロジェクトの評価および選定のプロセス.....	6
3-1. 環境面での目標.....	6
3-2. プロジェクトの評価・選定のプロセス.....	6
4. 調達資金の管理方針.....	7
4-1. 調達資金の管理方法.....	7
4-2. 未充当資金の運用方法.....	7
4-3. 文書管理の方法.....	7
5. レポーティング方針.....	7
5-1. レポート方法.....	7
5-2. 開示内容.....	7
5-3. レポーティング体制.....	8
6. 外部レビュー方針.....	8

1. はじめに

1-1. 借入人概要

当社は以下の事業を主たる事業としています。

- 太陽光発電システムの販売・設置・工事・管理・メンテナンス
- 自社太陽光発電所の設置・管理・メンテナンス
- 売電事業
- 家電小売
- 電気工事
- 住宅設備の販売・設置

1-2. CSR・ESG への取り組み

<環境理念>

すべての事業において、またすべての商品・サービスにおいて環境に配慮し、太陽光発電設備の販売設置をはじめ、周辺環境に配慮した太陽光発電所の建設を通じ、「持続可能な社会の実現」に取り組めます。

<環境方針>

私たち株式会社 A c t y カナイは、自ら果たすべき役割と責任を認識し、環境にあたる負担を減らしていくために継続的改善を実行します。

<環境負荷低減への取り組み>

当社は太陽光発電設備の販売設置による再生可能エネルギーの普及、自社の再生可能エネルギーの開発・売電を行っており、主要な事業が環境関連事業です。

当社は、この環境関連事業を推進しています。

<環境負担低減への取り組み理由>

当社は創業時から、電気関連の事業を主としてきました。

家電を中心に、顧客に販売設置する中、エアコン・冷蔵庫など次々に冷媒を中心に、メーカー主導で環境にやさしいものに変更されたり、省エネ商品が流通していきました。

昨今の、気候変動による温暖化や台風の大型化、異常な降水量による水害など、身近に環境の変化を感じ取れるようになりました。

その中で、当社規模で取り組める環境商品としては、前述の家電による、環境負担低減商品の販売設置の他に、自らも設置でき、目に見えて環境に貢献できる太陽光発電に着目

し、化石燃料による電気を作ることを抑えることができる、クリーンなエネルギーとして太陽光発電に注力し、誰にでも短期で、簡単に導入しやすい商品ですので、会社として取り組むことにしました。

1-3. グリーンローン借入の位置付け

当社は再生可能エネルギーを中心とした持続可能な社会の実現を目指します。

グリーンローン借入により、再生可能エネルギー関連事業への資金の充当は、当社の掲げる「持続可能な社会の実現」につながると考えます。

2. 調達資金の使途

2-1. 資金充当予定のグリーンプロジェクト

本借入による調達資金は、以下のプロジェクトに充当される予定です。名称

設備名	江府町高圧太陽光発電所
総事業費	70,000,000円
仕様/能力	499.5KW
数量	1
設置場所	鳥取県日野郡江府町大字美用字上ミ原道北ノニ1354-1, 1355-2

2-2. 環境改善効果

環境改善の効果	太陽光発電によるCO2排出量の削減 本プロジェクトの太陽光発電設備で発電された電気を、系統に売電あるいは、自家消費された電力が、従来使用されていた、火力発電等の化石燃料由来の電力で従来発生していたCO2排出量を削減する。
---------	--

なお、レポートニングにおいては、CO2排出削減量を開示することとします。

算定方式	プロジェクト実施によって新たに取得した太陽光発電設備による発電量に対して、設置地域において想定される系統電力のCO2排出係数を乗じて算出する。
算定式	【CO2排出削減量 (tCO2/年)】=発電量 (kwh/年) × 電力CO2排出係数 (kgCO2/kwh) ÷ 1,000

2-3-1 ネガティブインパクト

プロジェクトがもたらすと想定される環境リスクおよび主な環境保全措置は、以下の通りです。

想定される環境リスク	主な環境保全措置および評価
生態系への影響	森林伐採や土地造成において、林地の保全、環境保全に十分に配慮した事業活動および、当該地域・周辺地域での土砂の流出、崩壊、その他災害への十分な配慮といった関係法令に従った適正措置の実施
開発行為における公害	地域の生活環境を保全することを目的に、立地自治会への事前説明を行い、開発行為に係る事業活動に関して発生する排出ガス、排出水、粉塵、騒音振動および悪臭について、寒冷法令に従った適正措置及び管理
光害、景観への悪影響	地域の特性や周辺景観との調和を配慮し、関連法令に従った適正措置

2-3-2 将来への展望

当社は、太陽光発電に関してさらに細かく3つの事業に分類しております。

- ① 販売・設置
- ② メンテナンス
- ③ 売電

太陽光発電の普及開始当初は、メンテナンスがいらぬ商品として思われていました。

しかしながら、環境商品ですが、電気製品と同じ性質をもっていますので、専門技術や知識を必要とし、一般の利用者では、故障などが発見しにくい商品であり、知らないうちに実は故障しており、十分に機能が果たせないなどが、発生しています。

ですから定期的なメンテナンスが必要であり、電気の知識がある者すべての人ができるものではなく、設置や工事を経験し、運用経験、また専用の機械を使用したり、経験をもとに運用していく設備であり、専門性がある商品です。

この商品を将来、当社は化石燃料の代替商品とおき、蓄電システムを併用し、電力などの系統からの分離を行い、化石燃料から発生するCO₂削減に寄与したいと考えています。

また、地域循環エネルギーとも考えており、誰にでも簡単に導入しやすい太陽光発電設備は、

エネルギー自給率の向上を後押しし、同じくCO2の削減するとともに、域外に出ていたエネルギーにまつわるお金が、地域に落とされお金の循環も生まれると考えています。環境の低減とお金の循環は、疲弊する地域を活性化する起爆剤となり、将来「つよい田舎をつくる」と考えます。

2-4. 資金充当の予定

本物件は2023年9月に投資予定であり、グリーンローンにより調達した資金は同年度中に全額充当する見込みである。

3. プロジェクトの評価および選定のプロセス

3-1. 環境面での目標

本借入の調達資金を充当するプロジェクトにより達成される「環境面での目標」（グリーンローンを通じて実現しようとする環境上のメリット）と関連する環境改善効果は、以下の通りとなります。

環境面での目標	再生可能エネルギーの普及による気候変動の抑制
環境改善の効果	CO2排出量の削減

3-2. プロジェクトの評価・選定のプロセス

本プロジェクトの選定にあたって、当社米子支店の支店長小林が、前職住宅・不動産関係をしてきた為に、その長年培われた専門知識をもとに、また、地元鳥取県であり、もっている専門性と地元のつながりを利用できるために、当用地を選定した。

プロジェクト予定地は、条例などの確認を行い、江府町役場の職員に現地まで何度も同行して頂き、条例の確認を行い、条例関係の問題はないことを確認してもらった。

また、プロジェクト予定地の地元自治会である美用地区では、予定地にて役員の7名の方にお越しいただき、太陽光発電設置後の排水などの影響の確認及び地元の要望を、設計に反映することにした。

さらに、予定地の隣接自治会である御机地区に対しても、集会所にて住民説明会を実施済みであり、環境に影響なしとして、設置の同意を頂いております。

本プロジェクトの選定にあたって考慮・評価された基準は、プロジェクトを実施した場合の、一定値以上の採算性が担保され、関連する法令や自治体が定める条例等を順守すること

プロジェクトの選定にあたっては、これら基準に加え、上記1-2の環境方針に記載された

環境方針への適合と環境目標に記載された効果が得られることを検討し、また、地元同意も得られたことで、本プロジェクトは取締役会で最終決定されました。

4. 調達資金の管理方針

4-1. 調達資金の管理方法

本借入による調達資金の充当管理は経理担当が行います。本借入による調達資金総額、プロジェクトへの充当済資金、未充当資金は、電子ファイルにて管理します。

全ての調達資金が充当されるまでの間は、未充当額と充当額の合計が調達資金全額と整合するように管理します。

4-2. 未充当資金の運用方法

未充当金額については、仮に発生した場合には、現金または現金同等物、短期金融資産等で運用します。

4-3. 文書管理の方法

調達資金に関連する証憑となる文書等については、当社規定に基づき適切に管理します。

5. レポーティング方針

5-1. レポート方法

当社は、本借入による調達資金のプロジェクトに対する充当状況や環境改善効果等についての最新の情報を、以下のスケジュールでウェブサイトにて一般に開示します。また、本借入による全ての調達資金がプロジェクトに充当された後においても、大きな状況の変化が生じた場合は、適宜開示します。

①資金充当完了時レポート：資金充当が完了した直後に実施します。

②年度レポート：本借入の償還までの間、1年に1度実施します。

5-2. 開示内容

レポートには以下の内容を含む予定です。環境改善効果の算定に当たっては、本フレームワークで定義した算定方法に則り、適切に実施します。

示内容

開示内容
調達資金を充当したプロジェクト名
プロジェクトの概要および進捗状況

グリーンプロジェクトによる環境改善効果(発電量・CO₂排出削減量)

5-3. レポーティング体制

借入時レポートおよび年度レポートは、経理担当が主管として作成することとし、調達資金に関する情報収集・記載事項の確認、環境改善効果に関する情報収集・記載事項の確認を実施します。

6. 外部レビュー方針

当社は、本借入時に、本グリーンローンフレームワークがローン・マーケット協会（LMA）「グリーンローン原則2021」および環境省「グリーンローンおよびサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン2020年版」に定められた要件と適合性を有しているかという観点から、第三者評価機関である株式会社格付投資情報センターより、セカンド・パーティーオピニオンを取得しております。

以上